

リニア現地 見学会に参加

長野県 下伊那郡 大鹿村

ヘー！こんなところに穴あけるの？

大破碎帯、東海地震の影響は、貴重な自然はどうなるの？

リニア中央新幹線整備計画の検証に取り組む市民団体が8月1,2日、トンネルによるアルプス貫通を計画するJR東海が、大鹿村で実施した掘削調査の現地見学会を開催しました。

大鹿村は山に囲まれた静かな山村であり、南アルプスの入り口でもあります。周囲を活断層に囲まれ、また中央構造線と糸魚川-静岡構造線の2大断層が通っています。いまでも年間4mm以上の隆起を続けているとのこと。JR東海はここから南アルプスを貫くトンネルを計画しています。本当に可能なのでしょうか。近い将来必ず起きるといわれている東海大地震の対策は？貴重な自然は？大丈夫なのでしょうか。

1日1000tの土砂を処理するには毎日10tトラック100台必要

トンネルは23kmですから、断面積50㎡として1日10m掘り進むとしたら1日1000tの土砂が出ます。それを運ぶのに毎日10tトラック100台必要なのです。静かな山村を大型ダンプが行き交うことになります。

いつも巨大プロジェクトはまともな意見無視して進む

大鹿村現地



今回の現地学習会では地元で地質調査を続けてこられた専門家の講師から地質や自然について学びました。

いったん動き出してしまった巨大プロジェクトは止めることは非常にむづかしいのが通例です。夢の乗り物とマスコミや無責任な政治家たちが絶賛するリニアは、本当にそうなのでしょうか。夢どころか悪夢にならないため、問題点が山積みのリニア新幹線構想に私たちは反対します。